

---

# 猫バス女

くまのすけ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

猫バス女

### 【Nコード】

N5246M

### 【作者名】

くまのすけ

### 【あらすじ】

「私、猫バスに乗りたいの！」  
合コンの席で唐突にそう叫んださくら。頭のおかしいヤツだとか、いろいろいわれ、もう二度と合コンに誘ったりされなくなった。でも、その翌年、テレビで人気の若手俳優と婚約を発表したのは、猫バスの大好きな女子大生A。

「私、猫バスに乗りたいの！」

去年の夏の終わり、そう叫んだのは、さくらだった。

隣町にキャンパスのある有名私立大4年生の4人組との合コンの席。ただ数合わせのためにだけ呼ばれた同級生のさくらが、なんであんなことを言い出したのか……

乾杯をすまし、お互いの紹介もすみ、お酒も入って、さあ、これからって時に、いままでの話題とは何の脈絡もなく、唐突に、その一言が飛び出した。

その瞬間、美乃莉は、男たちに向けて、笑顔を浮かべていた。でも、唇の端を引きつらせ、強い視線でさくらをにらんでいる。その隣、男たちに媚びるようにドジっ娘・萌えキャラを演じていた瑞希も素に戻った表情でさくらを見つめるばかり。

さっきまで和気藹々としていた席は、一瞬にして沈黙包まれ、男女7対の目がさくらに釘付けになっていた。

頭のおかしいヤツ

だれが言ったのか、ぼつりとつぶやいたのが聞こえた。

美乃莉に気があるのか、美乃莉の前に陣取って、盛んにいろいろと話しかけていた上場企業のめがね御曹司（オススメ度：　　）は、さくらを馬鹿にした表情で見、あざけるように鼻を鳴らしただけだった。そして、何事もなかったかのように、美乃莉に話しかけはじめた。

その隣、瑞希の前の席、近くの市の市長さんの息子（美形・オススメ度：　　）は、

「猫バス？ あんなのいるわけじゃないじゃん！ だいたい、あんなのに夜道で出くわしたら、こえーこえー！ なあ？ そう思うだろう、

瑞希ちゃん？」

同意を求められた瑞希も、そ、そうねえ〜 だとか、どうともとれるような返事をしている。さっきの一瞬、本性がでた表情を見られたかしらとでも、思案していたのかな？ 市長の息子（オススメ度： ）の言葉なんて聞いていなかった。

で、瑞希の隣、さくらの向かいの席についている有名推理作家の息子で、一世を風靡したことのあるアイドルが母だとか言うロン毛の美男（超美形・オススメ度： ）は、

「へえ〜 猫バスかあ〜 あれつて、トトロだっけ？ 実際には、面白いだろうねえ〜 空飛んだりするんだよね？ 実際に似たもの作ろうと思つたら、大変だろうな〜 空とぶ車を作るなんて、そんな技術は、まだないし、運転するのも難しそうだよねえ〜？ 将来は猫バスなんていいけど、とりあえず今は、タイヤ4本ついでる車乗り回す方がよくない？」

そういいながら、軽くこっちにウィンクして、格好をつけてビールをあおった。

すごく様になってる。格好イイ！

私（瑞希とは反対の美乃莉の隣）の前の席には、いろいろなテレビ・映画で脇役として欠かせない俳優の息子で、昔、一曲だけチャートインしたことがある歌手を母に持つ男の子（残念ながら、顔は父親似・オススメ度： ）が、よくとおる澄んだ声で、

「猫バスかあ 俺も乗ってみたいな！ ねえ、さくらちゃん、さくらちゃんだったら、猫バス乗ってどこへ行きたい？ 俺なら、猫バスで、東北の方へ行ってみたいな。白神山地とか、自然がいっぱいあってさ。空気がうまくて……」

そういいながら、私の前の席を立ち、さくらの前の席へ歩いていっちゃった。

結局、さつきまで楽しくおしゃべりしあっていた男がいなくなり、つまらなさそうな私の相手をしてくれたのが、さくらの前にいたロン毛の超美形（オススメ度： ）。

これって、かえってラッキーかも。私、目の前の男について見とれちゃった。ほんとに、ほんとに、格好イイ男子！

私たちは、それから3ヶ月ぐらい付き合い、恋をして、愛し合い、裏切られ、傷ついた。

私がいいなと思うなら、他の女の子たちもいいと思うに決まっている！ しかも、彼は誠実さなんて、これっぽっちもない人間だったし……

それから、何度か他の男たちとデートをしたけど、結局、コレという男には会えることはなかった。

美乃莉と瑞希は、そもそも御曹司や市長の息子と付き合ったりすらもしなかったみたいだし。

結局、私たち3人は、今も合コン三昧。でも、もう、女子が一人足りなくて、数合わせに一人呼ぶ必要があっても、さくらだけは呼ばない。あんな空気を読まない、頭のおかしな女なんて……

今日は、ゼミで卒論の進捗状況を報告に大学へいく日。でも、出発の時間まで、まだまだ時間があつたので、テレビでワイドショーを見ている。ワイドショーの中では、芸能界のいろいろな情報が飛び交い、ちまたの話題にあふれている。やがて、ひとつのニュースが……

昨日、今年デビューしたばかりの若手俳優が婚約発表の記者会見を開いた……

テレビ・映画ではひっぱりだこの脇役俳優の息子で、母はヒット曲を一曲だけでもつ歌手という若手俳優。今年、大学を卒業して、俳優デビューしたばかりだけど、その父親譲りの演技力と、母親譲りの甘い美声でお茶の間の人気をさらい、決して美形とはいえないながらも、中年女性のアイドルといわれるようになった人。

婚約した相手の女性は、ひとつ年下の一般女子大生のAさん。来年、彼女が卒業してから籍をいれ、式を挙げるのだとか。そして、

そのAさん、猫バスが大好きな人なんだという……………

あさつて、私たちはまた、合コンの予定が……………  
私たち3人は、3人そろって、相変わらず彼氏もない、恋人もいない。世間でよくいわれる花の女子大生なんて、私たちには関係のない言葉。さびしいさびしい大学4年生。無味乾燥なわびしい人生。

でも、私、その合コンで、心の底から、きつと唐突に、こう叫んでしまうんだろうな！

「私も、猫バスに乗りたいの！」

(後書き)

もともとブログ(『恋とか、愛とか、その他もろもろ・・・』  
<http://loveetc.seesaa.net/>)の方で  
掲載していた話だけど、結構、気に入ったので、こちらにも転載で  
す。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5246m/>

---

猫バス女

2010年10月8日14時20分発行